

## 院内頭痛講演会開催情報源の検討

今井 昇

静岡赤十字病院 神経内科

**要旨：**一般市民・職員を対象とした講演会を企画する際に講演の情報収集手段に関する情報は重要である。そこで、当院で開催した頭痛講演会参加者に講演前に講演を知った情報源についてのアンケート結果を検討した。参加者93名（一般および当院以外の医療関係者33名、当院職員60名）のうち69名（74%）からアンケートを回収できた。講演を知った方法は複数回答可能のため延べ73名で、チラシ・ポスターが22名（30%）で最も多く、ついで社内報（21%）病院のホームページ名（16%）、新聞8名（11%）であった。所属により知った方法に有意な相違を認め（ $p>0.001$ ： $\chi^2$ 独立性の検定）、一般は新聞が30%でチラシ・ポスターが22%、当院職員はチラシ・ポスターと院報が各々38%で大半を占めた。これらの結果より、対象とする参加者により情報源が異なること、全体ではチラシ・ポスターが最も有効な手段であり、一般には新聞が有効な情報伝達手段であることが明らかになった。講演を企画する際はこれらの手段を積極的に使うことが望ましいと思われた。

**Key words：**頭痛、講演会、一般市民、病院職員、情報源

### I. はじめに

疾患の啓発活動の一つとして、一般市民・職員を対象とした講演会がしばしば行われるが、効果ある啓発活動とするためには参加者が多いことが望まれる。そのためには講演を企画する際、参加者が講演をどのように知ったかについての情報は重要である。本邦の頭痛患者は4,000万人と推定され<sup>1)</sup>、国民の健康を脅かす重要な疾患の一つと思われる。頭痛疾患の中で社会的、経済的損失が大きいのは片頭痛で、推定患者数は840万人、患者の74%、すなわち620万人が日常生活に何らかの支障を来している<sup>1)</sup>。また患者の多くは医療機関を受診しておらず、市販薬で我慢している<sup>1)</sup>。更に受診しても適切な治療を受けられず、自分でインターネットを使って専門医にたどり着いている<sup>2)</sup>。このような状況を改善するため、頭痛の社会啓発を目的として、日本頭痛協会が設立された<sup>3)</sup>。同協会では、頭痛に関する正しい知識の普及啓発を目的とした講演会・勉強会、市民講座等の啓発活動、頭痛患者および関係者に対する療育指導および支援、その他目的達成のために必要

な事業を行っている。その一環として、草の根市民講座を推進している。本講座は、診療所・病院単位で、通院患者などの一般市民および職員を対象に、頭痛の正しい知識を身につけてもらうことを目的として行う講演会である。

今回当院で草の根市民講座として頭痛講演会を開催したところ多くの参加者を得ることができた。そこで、今後有効な講演を行う際の情報を得るため、参加者に講演前に講演を知った情報源について行ったアンケート結果を検討した。

### II. 対象・方法

講演に先立ち、企画課および総務課がチラシ100枚を刷り3カ所に設置し、ポスターを院内6カ所に貼り、プレスリリース（市役所および県庁の担当へのFAX）を行い、病院ホームページ（HP）、病院広報誌および院報に掲載した。プレスリリース（市役所および県庁の担当へのFAX）の結果、本講演開催について、静岡新聞の紙面および産経ニュースに掲載された。対象は2013年9月19日木曜日に日本頭

痛協会の草の根市民講座として「～もう頭痛で悩まない、苦しめない～」という演題で、当院会議室で開催した頭痛講演会の参加者に行ったアンケート結果。方法は講演会参加者全員に受付時アンケートを手渡し、講演開始直前にアンケートを回収し集計。遅れてきた人は講演終了後に回収し集計した。また受付時に参加者を当院職員、非当院職員（外部）であるか受付係りが確認した。

アンケートは、講演をどのように知ったか、所属（一般、当院以外の医療関係者、当院職員）、頭痛に関する質問（自由記載）の3項目について行った（表1）。自由記載欄の質問内容は、症状、診断、治療、その他、に分類した。

### Ⅲ. 結 果

参加者は外部（一般および当院以外の医療関係者）33名、当院職員60名、合計93名であった。アンケートを回収できたのは69名（74%）で、一般23名、当院以外の医療関係者6名、当院職員40名であった。アンケートの回収率は、非当院職員88%、当院職員67%、全体で74%であった。

講演を知った方法の結果を表1に示す。講演を知った方法はチラシ・ポスターが22名（32%）で最

も多く、ついて病院のホームページ12名（17%）、新聞8名（12%）であった。所属別にみると、一般は新聞が最も多く（35%）、次いでチラシ・ポスター（26%）、当院のホームページ（22%）、当院の広報誌（17%）であった。当院以外の医療関係者は多様で、当院職員はチラシ・ポスターと院報が各々38%で大半を占めた。講演をどのように知ったかと所属には有意な相違を認めた（ $p>0.001$ ： $\chi^2$ 独立性の検定）。

自由記載欄に記入したのは、一般14名（61%）、当院以外の医療関係者1名（17%）、当院職員13名（33%）であった。質問内容は、症状12件、診断3件、治療16件、その他5件であった。質問内容と属性には有意な相違は認めなかった（ $p=0.405$ ： $\chi^2$ 独立性の検定）。

### Ⅳ. 考 察

アンケートの回収率は74%で、特に外部は88%と高かった。これは参加者の関心の高さに加え、簡単なアンケートにしたこと、質問欄を設けたこと、講演前に回収したことなどが高い回収率につながったと思われる。

講演を知った方法については、所属により有意に

表1 講演開催の情報源

	一 般	院外医療 関係者	当院職員
新聞	8	0	0
チラシ・ポスター	6	1	15
病院広報誌	4	2	0
社内報	0	0	15
当院のホームページ	5	1	6
当院以外のホームページ	0	0	2
知人	2	1	0
その他	2	1	0
無回答	0	0	20

異なった。一般は新聞が最も多く35%を占めた。このことより一般の参加を多くするためには新聞に掲載してもらうことが重要と思われる。しかし新聞に掲載してもらうには多くの人の関心を引くテーマであること、頻繁に行われていない内容であること、すなわち社会的に関心が高く必要とされている内容を選ぶことが重要と思われる。当院職員ではチラシ・ポスター、院報が、全体ではチラシ・ポスターが最も多く、古典的な広報方法であるが有効であることが改めて確認できた。またHPも院内、院外問わずある程度効果があり、安価にできる方法であり積極的な活用が望まれる。

質問内容は治療が最も多く、次いで症状が多かった。これは演題名が治療および対処法に関する内容を示唆するものであったため、頭痛に悩み苦しんでいる本人・家族の参加が多かったためと思われる。所属に有意差がなかったことから当院職員の出席者の多くが一般同様に頭痛患者およびその家族である可能性が示唆された。

今回の結果から、院内で一般市民・職員を対象とした講演会を行う際には、社会的に関心が高く必要

とされている内容を選ぶこと、外部向けにはマスメディアに載せてもらうこと、またチラシ・ポスターは有効な手段であることが示唆された。

## V. 謝 辞

本講演を後援および助言をしていただいた日本頭痛協会代表理事の間中信也先生、講演の準備、会場整備などを行った当院企画課・総務課に深謝します。

## 文 献

- 1) Sakai F, Igarashi H. Prevalence of migraine in Japan : a nationwide survey. *Cephalalgia* 1997 ; 17 : 15-22.
- 2) Imai N, Yagi N, Konishi T, et al. Websites offer helpful information concerning consultation with headache specialists. *Cephalalgia* 2010 ; 30 : 496-499.
- 3) 一般社団法人 日本頭痛協会. 日本頭痛協会の設立趣旨. [WWW document]. URL <http://www.zutsuu-kyoukai.jp/>[2013.10.24]

## The Source of Holding of the Lecture for General Citizen and Medical Staff

Noboru Imai

Department of Neurology, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital

**Abstract :** The purpose of this study is to clarify how the participants of the headache lecture for general citizen and medical staff held at our hospital knew about this lecture. The number of participants of this lecture was 93. The data were collected by using a questionnaire. The rate of collecting questionnaires was 74%. The major sources of the lecture holding were handbill and/or poster (30%) , homepage of this hospital (21%) , in-house newsletter (16%) and newspaper (11%) . The source of holding of the lecture was significantly different among general citizen, outside medical staff and inside medical staff. The major sources of general citizen were newspaper (30%) and handbill and/or poster (22%) , and these of inside medical staff were handbill or poster and in-house newsletter (38% each) . Handbill and poster were most effective source among all participants, and newspaper was most effective source among general citizen. These sources should be actively used if the lecture for general citizen and medical staff will be held.

**Key words :** headache, lecture, general citizen, medical staff, source